



1 儒家の教え

▶ pp.65 ~ 68

孝悌は仁の本

【原文】 有子（ゆうし）が曰（い）わく、其の人と為りや、孝弟（こうてい）（悌）にして上を犯すことを好む者は鮮（すく）なし。上を犯すことを好まずして乱を作（な）すことを好む者は、未だこれ有らざるなり。君子は本（もと）を務（つと）む。本立ちて道生ず。孝弟（悌）なる者は其れ仁の本たるか。

（「学而」，孔子，金谷治訳注『論語』岩波文庫）

【現代語訳】 有子がいわれた。「その人らが親に孝行、年長者には従順でありながら、上の者に逆らうような人間は少ない。上に逆らうことを好まないのに、反乱を起こしたがるような人間は在ったためしがない。君子は、根本を大切に。根本が定まって、初めて道というものが分かってくる。父母によく仕え、年長者を敬うことは、すべての人間に対する親愛の大本である。

克己復礼

【原文】 顔淵（がんえん）、仁を問う。子曰（のたま）わく、己れに克（か）ちて礼に復（かえ）

るを仁と為（な）す。一日己れに克ちて礼に復れば天下仁に帰す。仁を為すは己れに由（よ）る。而して人に由らんや。顔淵曰わく、請う、その目（もく）を問わん。子曰わく、礼に非（あら）ざれば視ること勿（な）かれ。礼に非ざれば聴くこと勿かれ。礼に非ざれば言うこと勿かれ。礼に非ざれば動くこと勿かれ。顔淵曰わく、回、不敏（ふびん）と雖（いえど）も請う、斯（こ）の語を事とせん。

（注）「克己」は「おのれをせめて」と読む説もある。

（「顔淵」，孔子，貝塚茂樹訳『論語』「世界の名著」中央公論社）

【現代語訳】 顔淵が、仁の徳について質問した。先生は、こう答えられた。「私欲を抑えて礼に立ちかえることが、仁である。一日でも私欲を抑えて礼に立ちかえることができれば、（人々はそれを見習って）天下はみな仁の徳になびきたがうであろう。仁を実現するのは、自己の努力次第なのであって、他人の力にたよることはできないのだ」。顔淵は、「その具体的な実践方法についてお尋ねします」と問うた。先生は、こういわれた。「礼の規範から外れたものを視てはならない、聴いてはならない、言ってはならない、行ってはならない」。顔淵は、「回（顔淵の字）は愚か者ではございますが、そのお言葉を自分の務めとしてまいります」と答えた。

中庸の徳

【原文】 子の曰（い）わく、中庸（ちゅうよう）の徳たるや、其（そ）れ至（いた）れるかな。民鮮（すく）なきこと久し。

（「雍也」，孔子，金谷治訳注『論語』岩波文庫）

【現代語訳】 先生はおっしゃった。「中庸は、道徳として最上至極のものだ。しかし人びとが中庸の徳を失ってから、なんと久しいことだ」。

徳治主義

【原文】 子の曰（い）わく、これを道びくに政を以てし、これを齊（ととの）うるに刑を以てすれば、民免（まぬが）れて恥ずること無し。これを道びくに徳を以てし、これを齊うるに礼を以てすれば、恥ありて且つ格（ただ）し。

（「為政」，孔子，金谷治訳注『論語』岩波文庫）

【現代語訳】 先生はおっしゃった。「法制度だけで政治を行い、刑罰だけで治安を維持しようとするれば、人びとは、法律にさえ触れなければ、どんな振る舞いをしても恥じることがなくなる。道徳によって導き、礼によって秩序を保つならば、人びとのあいだに悪事を恥じる心が生まれ、善を行うようになる」。